

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 28 年 9 月 1 日 (2016.9.1)

【公表番号】特表 2013-509381 (P2013-509381A)

【公表日】平成 25 年 3 月 14 日 (2013.3.14)

【年通号数】公開・登録公報 2013-013

【出願番号】特願 2012-535840 (P2012-535840)

【国際特許分類】

A 6 1 K 49/00 (2006.01)

B 8 2 Y 5/00 (2011.01)

B 8 2 Y 25/00 (2011.01)

【F I】

A 6 1 K 49/00 A

B 8 2 Y 5/00

B 8 2 Y 25/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 28 年 7 月 1 日 (2016.7.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

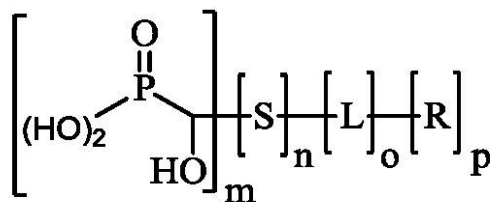
【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 6】

【化 1】



式中、S はスペーサーであり、L は S と R との間の連結基であり、R は親水性部分であり、m 及び p は 1 ~ 5 であり、n 及び o は 0 ~ 5 である。若干の実施形態では、S は直接結合、非置換又は置換脂肪族基又は脂環式基、非置換又は置換アリール基、ヘテロ脂肪族基或いはヘテロアリール基であり、若干の場合には 1 ~ 10 個の炭素原子からなる長さの直鎖アルキル基である。L は、直接結合、カルボニル基、エーテル基、エステル基、第二級又は第三級アミン、第四級アミン基、アミド基、カルバメート基或いは尿素基である。好適なナノ粒子は、水中における糖又は食塩のように溶質の個々の分子が溶媒中に一様に分散するという古典的な意味では、水に不溶なものである。したがって、水中においてある程度の懸濁性を有するナノ粒子を - ヒドロキシホスホン酸コンジュゲートで処理すること、及びこうして得られるコンジュゲートが付着したナノ粒子は、本発明に包含される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

本発明のコンジュゲートは、広義には多種多様の連結基及び親水性部分を有するものと

して定義される。重要な特徴は、化学的かつ立体的にアクセス可能な - ヒドロキシホスホン酸の3つのヒドロキシル基を有することである。かかる構造はキラル中心を有するものの、個々の鏡像異性体及び可能なラセミ混合物のすべてが水不溶性ナノ粒子に親水性を付与するために適していると予想される。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0019

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0019】

これらのコンジュゲートは、 - ヒドロキシホスホン酸構造と親水性部分との間に、炭素、窒素、酸素及び硫黄に基づくものをはじめとする周知の化学連結基のいずれかを含み得る。特に有利な基は、炭化水素、カルボニル、エステル、エーテル、第二級又は第三級アミン、第四級アミン、尿素、カルバメート及びアミドである。コンジュゲートで処理すべきナノ粒子の所期の最終用途は、連結基の選択に影響を与えることがある。例えば、ナノ粒子を特にヒト被験体においてインビボで使用するのであれば、タンパク質のような組織成分との相互作用を生じることがある第四級基のような連結基を避けるのが望ましい場合がある。不活性の観点から最も有利な連結基は炭化水素である。